

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 86,057人団体〔個人: 85,948人、団体・文庫:109団体〕(前年度比 56.3%) ※大規模改修工事に伴い、令和6年6月1日～7月1日、令和6年12月28日～令和7年1月31日は完全休館。 令和6年7月2日～12月27日は若林区中央市民センター別棟にて臨時窓口を開設。 令和5年度 152,894人団体〔個人:152,634人、団体・文庫:260団体〕(前年度比 88.3%) 令和4年度 173,126人団体〔個人:172,889人、団体・文庫:237団体〕(前年度比 109.9%) 《事業》 仙台市若林図書館の運営管理
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 - 指定管理者に支払った費用 89,663千円 (103,561千円) - その他市が負担した費用 11,987千円 (15,003千円) 《収入》 - 使用料収入 0千円 (0千円) - その他収入 5千円 (21千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート 実施期間:令和7年3月1日～3月14日

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。設備の不具合は、若林区文化センターと連携して対応しており、階段の目隠しコートフィルムの剥離等、経年による汚れや傷みが生じていた箇所は大規模改修工事により改善されている。	17/17
IV サービスの質の向上	大規模改修工事に合わせて2階のレイアウトを変更し、主に10代の利用者層を想定した資料と閲覧席等をそなえたYA(ヤングアダルト)エリアを新設し、利便性を向上させるとともに居場所としての図書館利用の増加につなげた。 職員の教育・研修において、個人情報保護研修など全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めているほか、大規模改修工事に伴う作業に先立ち、荷物の持ち方や身体的負担を軽減する方法等についての安全衛生研修を実施した。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	図書館の立地を活かし、震災遺構荒浜小学校や地域の史跡である陸奥国分寺の探訪、せんだい農業園芸センターとの連携によるバラ栽培の講座など、地域の歴史や魅力を発信する様々な事業を行っており、震災の記憶の継承や、市民が地域についての理解を深め郷土愛を育む一助となっている。 また、荒井サービススポットの運営を着実にを行い、地域に密着した身近なサービススポットとしての役割を果たし、図書館から離れた場所でも本に親しむ場を提供している。	19/17

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
令和6年度は大規模改修工事に伴い例年とは大きく異なる環境のもと、仙台市が目指す「地域、市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向けて図書館運営を行った。 改修工事は同規模では例を見ないものとなったが、梱包資材の仕様や作業段取りの提案、担当事業者との調整を積極的に行い、困難な業務を遂行することができ、後続館のモデルにもなりうると思う。また、老朽化していた視聴覚ブースを整理し、Wi-Fiや電源付き読書席を設け、若い世代向けのコーナーを新設するなど2階フロアの改善に取り組んだ。 休館中には荒井サービススポットと若林区中央市民センター別棟内の臨時窓口で予約資料の提供を中心に可能な限りのサービスを行った。総利用者は前年度の50%程度であったが、予約貸出は80%を超え切れ目のない図書館サービスに寄与できたと考える。また、せんだい3.11メモリアル交流館にある「3.11震災文庫」のサポートも行うことができた。 主催事業としてはアウトリーチ型事業を積極的に行った。農業園芸センター、新寺こみち市、のびすく若林、若林ふるさとまつり実行委員会、陸奥国分寺、仙台市文化財課、震災遺構荒浜小学校、3がつ11にちをわすれないためにセンター、複数の児童館などの協力を得て、おはなし会や講座、見学会を実施し、休館中も図書館に親しむ機会の創設に努めた。「仙台市図書館振興計画2022」において管理指標とされている事業の実績は下記のとおりであり、地区館としての役割を果たすことができたと思う。 ・乳幼児向けイベント参加者：R6年度 1,523人（R5:1,344人 R4:1,139人） ・アウトリーチ型事業参加者：R6年度 574人（R5:571人 R4:504人） 令和7年2月の開館後は館内紹介の動画を作成する等の情報発信にも努めており、今後も地域に親しまれ役立つ図書館の運営に尽力していきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和6年度は、大規模改修工事に伴い資料・物品等の整理や梱包、搬出入作業など、通常の図書館運営とは異なる多くの業務が発生する中で、各関係機関と連携を密にしながら着実に業務を遂行し、若林区中央市民センター別棟での臨時窓口の開設や、アウトリーチ型事業の拡充などにより、休館中もあらゆる世代が読書に親しむ機会を提供し、図書館サービスの充実に努めた。 こども読書活動推進に資する事業としては、令和5年度に引き続き中高生を対象に図書館YA（ヤングアダルト）サポーター「としよ部」を募集し、本の修理や配架などの体験を通して読書活動支援を行ったほか、区内児童館やのびすく若林、せんだい3.11メモリアル交流館などとの連携によりおはなし会を積極的に実施した。 自主事業としては、震災遺構荒浜小学校や地域の史跡である陸奥国分寺の探訪、せんだい農業園芸センターとの連携によるバラ栽培の講座など、地域の歴史や魅力を発信する様々な事業を行っており、震災の記憶の継承や、市民が地域についての理解を深め郷土愛を育む一助となっている。 また、令和5年6月に開設した荒井サービススポットは、円滑な運営により利用者数も着実に増えており、地域に密着した身近なサービススポットとしての役割を果たし、図書館から離れた場所でも本に親しむ場を提供している。 図書館内においては、大規模改修工事に合わせて2階のレイアウトを変更し、主に10代の利用者層を想定した資料と閲覧席等をそなえたYA（ヤングアダルト）エリアを新設し、利便性を向上させるとともに居場所としての図書館利用の増加につなげた。 職員の教育・研修において、個人情報保護研修など全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めているほか、大規模改修工事に伴う作業に先立ち、荷物の持ち方や身体的負担を軽減する方法等についての安全衛生研修を実施した。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。 以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫して新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館